

山梨県神社庁報

かみがね

祝祭日には国旗を掲げましょう



11月3日 文化の日
 11月23日 勤労感謝の日
 1月1日 元日
 1月13日 成人の日

令和6年秋号 (第207号)



金櫻神社拝殿竣工 (山梨市牧丘町仙口)

令和六年度神社関係者大会 次第

日時 令和六年十月二十二日(火曜・仏滅)
 会場 YCC県民文化ホール 大ホール
 (山梨県立県民文化ホール大ホール)

第一部 神宮大麻暦頒布始祭

- 、修祓
- 、齋主が一拝す
- 、神饌を供す
- 、齋主祝詞を奏す
- 、豊栄の舞奉奏
- 、齋主玉串を奉りて拝礼
- 、庁長玉串を奉りて拝礼
- 、総代会長玉串を奉りて拝礼
- 、来賓代表玉串を奉りて拝礼
- 、神饌を撤す
- 、齋主が一拝す
- 、各退出

- 、神宮大麻並び暦頒布奉仕者代表に授与
- 、各退出

講話

休憩

第二部 神社関係者大会

- 、開式の辞
- 、神宮遙拝
- 、国歌斉唱
- 、敬神生活の綱領唱和
- 、庁長式辞
- 、総代会長挨拶
- 、庁務報告
- 、功績表彰
- 、経過報告
- 、功績表彰
- 、山梨県神社庁規程表彰
- 、山梨県神社総代会規程表彰
- 、山梨県神社総代会規程表彰
- 、表彰状伝達
- 、全国神社本庁規程表彰
- 、全国神社総代会規程表彰
- 、神宮大麻頒布優良奉仕者表彰
- 、長寿の祝い記念品贈呈
- 、来賓祝辞
- 、被表彰者謝辞
- 、萬歳奉唱
- 、閉式の辞

大会終了



式 辞

庁長 小佐野 正 史

本日ここに、令和六年度山梨県神社関係者大会を開催いたしましたところ、神社本庁統理様、

神宮大宮司様、神道政治連盟会長様をはじめ、多くのご来賓の

ご臨席を賜り、県内神社関係者の皆様には、繁忙中にも関わらず多数のご参加をいただき斯く

も盛大に挙行できますことは、誠にご同慶の至りに存じ、衷心より感謝と御礼を申し上げます。

先ずもつて去る一月一日に発生した令和六年能登半島地震をはじめ、度重なる自然災害によつて被害を受けられた方々に心よりお見舞いを申し上げます。

救援と復旧の作業が速やかに進むことを願いつつ、神社庁と致しましては義捐金を募集し、神社本庁を通じて被災地へ届けさせていただきました。皆様の温かいご支援に感謝致しますと共に、被災神社の復興に向けた更

なるお力添えをお願い申し上げます。畏くも天皇陛下におかせられましたのは天機愈々麗しく、日々ご公務にあたられ、ご精励遊ばされておられますこと慶賀に存じます。また、神宮のことに大御心をつかわされますことは、誠に有り難く畏き極みであります。

また、御遷宮の基盤となります神宮大麻頒布につきましては昨年、関係者各位のご尽力を賜りましたが、減体となり残念な結果でした。頒布活動も大変厳しい状況下にあるものと拝察しますが、各支部におかれましては増体頒布の機運を盛り上げ、尚一層のご尽力をお願い申し上げます。

人口減少、少子高齢化により人々の価値観と生活の有り様が劇的に変化し続ける今、斯界を取り巻く現状は厳しさを増し、神社護持に大きな影響が及ぶことが憂慮されます。私共関係者は先人達が培ってきた我が国固有の精神文化を基調とした伝統的価値観や道徳意識を一層昂めて参ることが肝要だと思ひます。

特に私共関係者は一意専心、神社神道の興隆に邁進する秋と存じます。

地域社会の心の拠り所としての役割を担ってきた神社の祭祀祭礼を賑々しく齋行し、神社と地域を元気にしていかなければなりません。コミュニティの中心に神社があり、祭りを中心に

人々が繋がる。神様への感謝を忘れることなく、大御心をいだきながら日々の生活に励む、そのような人々が地域に溢れる。安寧と平穏を願い、祈りの場として神社が担う役割は極めて重要と考えます。広く皆様の叡智を結集して祭祀の厳修と地域社会の平安に寄与せねばならないものと存じます。

人々の精神的紐帯である神社の歴史と伝統を支えに、神社庁が本来果たすべき役割を考え、五年先、十年先を見据えた展望を描きつつ、更なる発展のために力を尽くして参りたく存じます。どうか皆様方には神社庁の諸施策に対し、倍旧のご理解ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びにあたり、本日功績表彰をお受けになられた方々に対しお祝いを申し上げます、この一年間に物故されました関係各位のご功績を偲び謹んで哀悼の意を表しますと共に、関係神社のご発展と皆様方のご健勝をお祈り申し上げます。

心

に

神

社

敬神生活の綱領

神道は天地悠久の大道であつて、崇高なる精神を培ひ、太平を開くの基である。神慮を畏み祖訓をつぎ、いよいよ道の精華を發揮し、人類の福祉を増進するは、使命を達成する所以である。

ここにこの綱領をかかげて向うところを明らかにし、実践につとめて以て大道を宣揚することを期する。

- 一、神の恵みと祖先の恩とに感謝し、明き清きまことを以て祭祀にいそしむこと
- 一、世のため人のために奉仕し、神のみこともちとして世をつくり固め成すこと
- 一、大御心をいただきてむつび和らぎ、国の隆昌と世界の共存共栄とを祈ること



ごあいさつ

山梨県神社総代会

会長 小 尾 武

秋深まる、今日の佳き日に山梨県神社庁関係者大会が盛大に開催されるに当り、一言ご挨拶申し上げます。

ご参会の皆様には、平素より奉仕神社の護持運営に御尽力戴き、斯界の発展に御挺身戴いておりますことに心より敬意を表します。

冒頭にあたり常日頃総代会にご協力ご指導いただき感謝申し上げます。令和六年を迎え家族団らんで楽しんでる中で起きた能登半島地震をはじめ、迷走した台風十号での災害・被害を受けた方々に哀心よりお見舞いを申し上げます。

能登半島地震の発生から十ヶ月が経過いたします。被災された神社も数多くあり、山梨県神社庁でも義捐金を募り拠出いたしました。復興には程遠く感じられます。今後出来る限りの支援を行いたいと存じます。神宮大麻増体運動につきましても、総代会としても積極的に

取り組んで参り若い世代にも幅広く増体を図っていきたくと思っておりますので皆様方のご協力をお願い致します。

不活動神社が県内に二〇〇社余り有ると云われておりますが、力を合わせて解決出来る様ご協力をお願い致します。

神社に携わる我々の使命は、地元の神社や地域に伝わる伝統文化を守り継ぐことにあります。神職・総代・神社関係者が日頃から連携を取り強固な関係を築いていかなければならないと思っております。

神社と総代は両輪とは言えども総代が神職をさて置いて歩む事は如何なものかと感じます。信仰の空気の中でのご奉仕なので穏やかに楽しく努めたいと思います。

第五十九回全国神社総代会大会が九月十一日に香川県にて開催され全国規程表彰を峽北支部の江上年秋様、南都留支部の三枝正満様が受彰されました。誠

におめでとうございます。全国より千七百名が集り厳肅な大会でした。

来年の六十回大会は長野市に於いて開催されます。

結びにあたり、本日表彰の栄に浴された方々の多年に亙る輝かしい御功績に対し、深甚なる敬意を表しますと共に国民の祝日には国旗掲揚推進活動にご協力と各神社の弥栄と皆様方のご健勝をご祈願申し上げ御挨拶と致します。

能登半島地震義捐金寄付者名簿

かひがね二〇六号にて記載の名簿に誤りがございました。左記の通り訂正をし、読者の皆様ならびに関係者の皆様にご迷惑をおかけしましたことを深くお詫び申し上げます。

訂正

市川三郷町下声川麩製神社	北村晴一
市川三郷町下声川麩製神社	芦沢正和
市川三郷町下声川麩製神社	土橋雅延
市川三郷町上野麩製神社	市瀬純司
市川三郷町上野麩製神社	青木達雄
市川三郷町上野麩製神社	高森哲郎
市川三郷町上野麩製神社	青木豊
市川三郷町上野麩製神社	中込幸一
市川三郷町上野麩製神社	小池敏

庁 務 日 誌 抄

祭 儀 関 係

令和五年

- 九・一 神殿月次祭参向
- 九・一 牛倉神社例祭献幣使参向
- 九・一七 神宮大麻曆頒布始祭参列
- 九・一七 小室浅間神社献幣使参向
- 九・一四 峡南支部神宮大麻曆頒布始祭参列
- 一〇・一 神殿月次祭参向
- 一〇・一 山梨縣護國神社献幣使参向
- 一〇・二四 山梨県神社庁神宮大麻曆頒布始祭参向
- 一〇・二七 甲府支部神宮大麻曆頒布始祭参列、東山梨支部神宮大麻曆頒布始祭参列
- 一〇・三〇 東八代支部神宮大麻曆頒布始祭参列、南都留支部神宮大麻曆頒布始祭参列
- 一一・一 神殿月次祭参向
- 一一・一 峡北支部神宮大麻曆頒布始祭参列
- 一一・九 峡中支部神宮大麻曆頒布始祭参列、北都留支部神宮大麻曆頒布始祭参列
- 一一・一三 神殿新嘗祭参向
- 一一・一三 神殿月次祭参向
- 令和六年
- 一・一三 神殿歳旦祭参向
- 一・一三 神殿例祭参向
- 二・一七 神殿月次祭参向
- 二・一七 神殿祈年祭参向
- 三・一 神殿月次祭参向
- 三・一 神宮大麻曆頒布終了祭参列
- 三・二六 靖國神社正式参拜
- 四・一 神殿月次祭参向
- 四・一 山梨縣護國神社例祭参列
- 四・二五 武田神社例祭参列

神 社 本 庁 ・ 神 社 庁 ・ 神 政 連 ・ 総 代 会

令和五年

- 四・二三 靖國神社春季例大祭参列
- 五・一 神殿月次祭参向
- 五・三 稻積神社例大祭参列
- 五・五 北口本宮富士浅間神社献幣使参向
- 五・一 悠紀の里お田植祭参列
- 六・一 神殿月次祭参向
- 七・一 神殿月次祭参向
- 八・一 山梨縣護國神社正式参拜
- 八・一 北口本宮富士浅間神社鎮火祭参列
- 八・二六 山梨縣護國神社正式参拜
- 八・二六 火祭参列
- 九・一 東山梨支部定期総会(山梨市民会館)
- 九・一 悠紀の里拔穂祭
- 九・三 牛倉神社献幣使参向(牛倉神社)
- 九・六 第五十八回全国神社総代会大会(群馬県高崎市)
- 九・七 堀内詔子を励ます会(東京都)、神社本庁常務理事会(神社本庁)、神社本庁役員会(神社本庁)
- 九・二二 全国敬神婦人全国大会(宮崎)、不活動神社第二回実地調査(北都留支部神宮大麻曆頒布始祭参列)
- 九・二七 神宮大麻曆頒布始祭参列(神宮、雅楽研修会(甲) 神宮、雅楽研修会(乙) 雅楽研修会)
- 九・二八 教化委員会(常磐ホテル)有村治子二十周年感謝の集い(東京都)
- 九・二四 峡南支部神宮大麻曆頒布始祭(峡南支部)
- 九・二八 神社庁役員会(山梨県神社庁)、顧問参与会(ホテル談露館)

- 九・二九 中山長老祝賀会(パレスホテル大宮)、神道雅楽会琴稽古(山梨県神社庁) 庁報委員会(山梨県神社庁)
- 一〇・二 山梨縣護國神社献幣使参向・参列(山梨縣護國神社)、山形県神社庁長特別昇進祝賀会(鶴岡市) 都七県神社庁教化担当 者会(常磐ホテル)
- 一〇・一〇 神宮大麻都市頒布向上計画委員会(山梨県神社庁)、神社庁役員会(山梨県神社庁)
- 一〇・二四 神道雅楽会稽古(山梨県神社庁)
- 一〇・二七 神社本庁定例評議員会(神社本庁)
- 一〇・二四 令和五年度山梨県神社関係者大会(YCC県民文化ホール)
- 一〇・二六 教化委員会(山梨県神社庁)
- 一〇・二七 甲府支部神宮大麻曆頒布始祭(甲府支部)、東山梨支部神宮大麻曆頒布始祭(東山梨支部)
- 一〇・二七 東八代支部神宮大麻曆頒布始祭(東八代支部)、南都留支部神宮大麻曆頒布始祭(南都留支部)
- 一〇・三〇 北都留支部神宮大麻曆頒布始祭(北都留支部)
- 一一・一 都七県神社庁庁長会(明弘記念館)
- 一一・八 峡中支部神宮大麻曆頒布始祭(峡中支部)、北都留支部神宮大麻曆頒布始祭(北都留支部)
- 一一・九 身分選考委員会(山梨県神社庁)、神社庁役員会(山梨県神社庁、神殿新嘗祭参向(山梨県神社庁)、神宮大麻曆頒布のた

- 一一・二六 中の講演会(山梨県神社庁) 庁報委員会(山梨県神社庁)
- 一一・二二 新穀感謝祭
- 一一・二四 教化委員会(山梨県神社庁)
- 一一・二八 全国教化担当者会議(神社本庁)
- 一二・一 日本会議キャラバン隊来県
- 一二・二 人事委員会(山梨県神社庁)、神社庁役員会(山梨県神社庁)
- 一二・一五 庁報委員会(山梨県神社庁)
- 一二・二五 庁報委員会(山梨県神社庁)
- 令和六年
- 一・一〇 神社庁役員会(山梨県神社庁)
- 一・二三 神社庁臨時役員会(山梨県神社庁)、神殿例祭参向(山梨県神社庁)
- 一・二五 山梨県女子神職会総会(山梨県神社庁)
- 一・二六 教化委員会(山梨県神社庁) 神宮初参り
- 一・二九 第二期過疎地域神社活性化推進施策研究会(神社本庁)
- 二・七 神社庁役員会(山梨県神社庁)、神殿祈年祭参向(山梨県神社庁)、教化講演会(山梨県神社庁)
- 二・一三 第二十二回神道政治連盟事務局対策連絡会議(衆議院議員第二議員会館)
- 二・一九 東山梨・東八代支部合同祭式研修会(山梨県神社庁)
- 二・二二 都七県神社庁連合会総

二・二二	会(ホテル鐘山苑) 教化委員会(山梨県神社庁)	四・二三	神道青年会全国協議会七十五周年記念大会(明治記念館)	六・三	表彰委員会(山梨県神社庁)、神社庁役員会(山梨県神社庁)	七・二三	会(山梨県神社庁) 山梨県神社総代会監査(山梨県神社庁)
二・二六	一都七県神社庁連合会第六十八回中堅神職研修会(甲)(明治神宮会館)	四・二五	神宮大麻頒布向上計画委員会(山梨県神社庁)、講師会(山梨県神社庁)、神社庁役員会(山梨県神社庁)	六・六	神宮評議員会(神宮) 神政連本部長事務局長連絡会(本社本庁)、神政連国会議員懇談会(ホテルニューオータワ)	七・二四	甲府支部神職総代会合同総支部神職総代会合同総会(北都留支部)
三・一	一都七県神道政治連盟本部長幹事長事務局長会議(第一ホテル東京)	五・三	稲積神社例大祭参列(稲積神社)	六・一〇	北支部総会(峽北支部) 神政連中央委員会(本社本庁)、本社本庁事務担当者会(本社本庁)	七・二五	神道政治連盟山梨県本部役員会(山梨県神社庁) 初任神職研修会(山梨県神社庁)
二・二八	神社庁職員実務研修会(本社本庁)	五・五	北口本宮富士浅間神社例大祭献幣使参向(北口本宮富士浅間神社)	六・一一	山梨県敬神婦人連合会監査会(山梨県神社庁)	七・二七	神道政治連盟地方議員懇談会監査会(県議会) 初任神職研修会(山梨県神社庁)
二・二九	神社庁シテム改修意見交換会(本社本庁)	五・一一	悠紀の里御田植祭り参列	六・一三	山梨県敬神婦人連合会監査会(山梨県神社庁)	七・二八	本社庁監査会(山梨県神社庁)、教化委員会(山梨県神社庁)
三・五	神宮大麻頒布終了祭参列(神宮)、神宮大麻頒布向上計画研修会(神宮) 本社本庁理事会(本社本庁)、教化委員会(山梨県神社庁)	五・二〇	神社対策委員会実地調査(東山梨支部)	六・一七	山梨県敬神婦人連合会監査会(山梨県神社庁)	八・一	神道政治連盟地方議員懇談会監査会(県議会) 初任神職研修会(山梨県神社庁)
三・二二	県神社庁	五・二二	全国神社総代会代議員会(本社本庁)、國學院大學協議員会(明治記念館) 本社本庁表彰式(明治記念館)	六・二〇	山梨県敬神婦人連合会監査会(山梨県神社庁)	三・三	初任神職研修会(山梨県神社庁)
三・二四	本社庁役員会(山梨県神社庁)	五・二二	全国神社総代会代議員会(本社本庁)、國學院大學協議員会(明治記念館) 本社本庁表彰式(明治記念館)	六・二二	峽中支部総会(櫛形生涯学習センター)、教化委員会(山梨県神社庁)	八・六	表彰委員会(山梨県神社庁)、本社庁役員会(山梨県神社庁)
三・一五	庁報委員会(山梨県神社庁)	五・二三	本社本庁定例評議員会(本社本庁)	六・二五	庁規則検討委員会(山梨県神社庁)、予算委員会(山梨県神社庁)	八・一九	神道政治連盟山梨県本部監査会(山梨県神社庁)
三・一六	峽南・峽中・峽北支部合同祭式研修会【中止】	五・二三	本社本庁定例評議員会(本社本庁)	七・二	皇室の伝統を守る国民の会総会(明治記念館)	八・一九	神道政治連盟山梨県本部護国神社正式参拜(山梨県護国神社) 神道政治連盟山梨県本部代議員会(山梨県神社庁)、神道政治連盟山梨県本部地方議員懇談会総会(山梨県神社庁)
三・一八	女子神職会関東地区研修会(ホテル春日居)	五・二四	本社本庁、庁長会(本社本庁)	七・八	一都七県神社庁連合会中堅神職研修会開講式(明治神宮会館)	八・二二	北口本宮富士浅間神社鎮火祭参列(北口本宮富士浅間神社)
三・一九	出羽三山神社宮司就任祝賀会(鶴岡)	五・二四	本社本庁、庁長会(本社本庁)	七・八	一都七県神社庁連合会中堅神職研修会開講式(明治神宮会館)	八・二九	山梨県女子神職会祭祀舞研究会
三・二二	山梨県神道雅楽会稽古(山梨県神社庁)	五・二五	東八代支部神職総代会合同総会(浅間神社)	七・九	身分選考委員会(山梨県神社庁)、神宮大麻頒布向上計画員会(山梨県神社庁)、本社庁役員会(山梨県神社庁)	八・三三	庁報委員会(山梨県神社庁)
三・二四	一宮賀茂神社竣工奉告祭参列(身延町)	五・二六	南都留・北都留支部合同祭式研修会(牛倉神社)、峽南支部神職総代会合同総会(南都町)	七・一〇	靉鍊成研修会(つっじヶ崎温泉)	八・二六	北口本宮富士浅間神社鎮火祭参列(北口本宮富士浅間神社)
三・二八	一都七県神社庁連合会事務職員研修会(ホテル談露館)	五・二七	庁報委員会(山梨県神社庁)	七・一一	一都七県神社庁連合会中堅神職研修会閉講式(明治神宮会館)	八・二九	山梨県女子神職会祭祀舞研究会
三・二九	庁報委員会(山梨県神社庁)	五・二八	教化研修旅行(宮崎)	七・一二	一都七県神社庁連合会中堅神職研修会閉講式(明治神宮会館)	八・三〇	東山梨支部定期総会(東山梨支部)
四・四五	全国神社総代会幹部研修会(長崎)	五・二八	靖國神社宮司就任挨拶会(パレスホテル東京)	七・一三	緑陰子供会【中止】	八・三〇	悠紀の里拔穂祭(甲府)
四・一二	高田神社例大祭参列(武田神社)	五・二九	絹布改正武道館一万人大会	七・一九	山梨県敬神婦人連合会総	八・三一	
四・一八	一都七県評議員の会(明治記念館)、教化委員会(兩之木八幡宮)	六・二	氏子青年協議会総会(甲府)	七・二二			

山梨県神社庁経常費歳入歳出決算				自 令和 5 年 7 月 1 日	至 令和 6 年 6 月 30 日	
山梨県神社庁経常費歳入歳出予算				自 令和 6 年 7 月 1 日	至 令和 7 年 6 月 30 日	
歳 入 の 部						
款項	科 目	令和 5 年度決算額	令和 6 年度予算額			
神社本庁幣帛料		372,200	370,000	通 信 運 搬 費	545,878	900,000
負 担 金		22,115,990	22,504,600	賄 費	20,828	50,000
本 庁 協 賛 金		580,000	580,000	旅 費	1,371,910	1,800,000
神 社 負 担 金		11,194,100	11,312,600	交 際 費	678,810	900,000
神 職 負 担 金		8,097,000	8,282,000	慶 弔 費	112,490	250,000
特別神社寄贈金		1,844,890	1,930,000	雑 費	36,962	100,000
神宮奉賛活動推進費		400,000	400,000	車 両 維 持 管 理 費	978,683	1,200,000
交 付 金		55,682,240	54,400,000	事 業 費	9,047,459	8,805,000
神宮神徳宣揚費		54,800,000	53,600,000	教 化 関 係 費	217,584	400,000
神 社 本 庁 交 付 金		882,240	800,000	教 化 委 員 会 費	2,481,694	2,500,000
財 産 収 入		10,528	12,000	地 方 研 修 所 費	681,836	1,000,000
神 殿 奉 納 金		10,000	10,000	講 習 会 助 成 費	0	50,000
財 産 利 子		338	1,000	庁 報 発 行 費	1,133,000	1,200,000
預 金 利 子		190	1,000	郷 土 暦 調 整 費	1,042,796	1,100,000
諸 収 入		4,577,719	3,898,062	神宮奉賛活動推進費	400,000	600,000
郷土暦頒布費		1,884,000	1,800,000	指 定 団 体 補 助 金	1,220,000	1,220,000
手 数 料 並 授 与 料		826,600	500,000	神 社 本 庁 協 賛 金	435,000	435,000
雑 収 入		727,119	598,062	表 彰 費	73,978	100,000
特 別 納 付 金		1,140,000	1,000,000	神 社 調 査 費	0	50,000
当 初 運 営 金		6,000,000	5,000,000	諸 祭 寄 贈 金	110,000	150,000
繰 越 金		7,535,393	7,115,338	一 都 七 県 当 番 準 備 金	0	-
歳 入 合 計		96,294,070	93,300,000	一 都 七 県 当 番 県 助 成 金	1,251,571	0
歳 出 の 部						
款項	科 目	令和 5 年度決算額	令和 6 年度予算額			
幣 帛 料		376,800	450,000	神 社 本 庁 負 担 金	4,520,250	4,590,000
神宮神徳宣揚費		34,919,688	34,240,000	大 麻 暦 頒 布 費	952,740	1,045,000
本 庁 特 別 納 付 金		10,989,688	10,800,000	頒 布 始 祭 費	80,000	80,000
支 部 交 付 金		23,930,000	23,440,000	郷 土 暦 頒 布 交 付 金	565,200	600,000
会 議 費		3,473,718	4,050,000	荷 造 発 送 費	34,540	50,000
役 員 会 費		1,599,788	1,700,000	頒 布 費	273,000	315,000
委 員 会 費		97,185	150,000	派 遣 費	1,171,327	1,660,000
関 係 者 大 会 費		1,262,203	1,500,000	評 議 員 派 遣 費	293,860	350,000
参 与 会 費		514,542	700,000	一 都 七 県 連 合 会 派 遣 費	748,687	1,000,000
給 料 及 諸 給 与		18,448,664	18,954,940	神 宮 奉 仕 員 派 遣 費	0	10,000
給 給 手 当		9,600,000	9,784,800	事 務 担 当 者 派 遣 費	128,780	300,000
諸 給 与		2,550,840	2,550,840	会 館 運 営 費	1,201,189	1,430,000
賞 賞		3,600,000	3,669,300	神 殿 費	103,589	200,000
備 人 料		0	50,000	借 地 費	400,000	400,000
社 会 保 險		2,628,281	2,800,000	営 繕 費	246,200	300,000
福 利 厚 生 費		69,543	100,000	管 理 費	323,400	400,000
庁 費		5,646,897	8,150,000	諸 費	128,000	130,000
備 品 費		565,353	800,000	資 金 財 産 造 成 費	3,020,000	3,120,000
文 房 具 費		24,180	50,000	基 本 財 産 造 成 費	10,000	10,000
図 書 印 刷 費		47,550	200,000	予 備 資 金 積 立 金	10,000	10,000
消 耗 品 費		353,433	500,000	職 員 退 職 金 積 立 金	500,000	500,000
光 熱 水 費		910,820	1,400,000	会 館 維 持 資 金 積 立 金	500,000	600,000
				神 宮 式 年 遷 宮 積 立 金	1,000,000	1,000,000
				災 害 対 策 基 金 積 立 金	1,000,000	1,000,000
				分 担 金	600,000	500,000
				運 営 資 金 積 立 金	800,000	800,000
				次 年 度 当 初 運 営 金	5,000,000	5,000,000
				予 備 費	0	505,060
				歳 出 合 計	89,178,732	93,300,000

山梨県神社庁総代会経常費歳入歳出決算				自	令和5年7月1日	至	令和6年6月30日
山梨県神社庁総代会経常費歳入歳出予算				自	令和6年7月1日	至	令和7年6月30日
歳入の部					消耗品費		4,147
款項	科目	令和5年度決算額	令和6年度予算額		旅費		568,534
諸	収入	3,041,849	3,019,254		手当		120,000
負	担	1,531,000	1,549,500		慶弔費		16,500
協	賛	1,426,000	1,433,000		役員会費		6,220
寄	付	0	5,000		雑費		13,851
雑	収入	84,849	31,754		全国神社総代会代議員派遣費		136,940
前	年度繰越金	3,714,649	2,830,746		負担金		172,200
歳	入合計	6,756,498	5,850,000		事業費		2,469,610
歳出の部					神社振興対策費		0
款項	科目	令和5年度決算額	令和6年度予算額		講演会費		0
諸	支出	883,942	1,720,000		功績者表彰費		60,768
備	品費	6,440	10,000		研修費		320,000
文	房具費	1,980	10,000		全国総代会積立費		500,000
図	書印刷費	0	10,000		総会費		1,588,842
通	信運搬費	9,330	30,000		予備資金積立金		400,000
					予備費		0
					歳出合計		3,925,752

神政連山梨県本部歳入歳出決算				神政連山梨県本部歳入歳出予算			
自令和5年7月1日至令和6年6月30日				自令和6年7月1日至令和7年6月30日			
歳入の部					歳出の部		
款項	科目	令和5年度決算額	令和6年度予算額	款項	科目	令和5年度決算額	令和6年度予算額
会	費	1,836,000	1,840,000	經	常費	239,742	250,000
特	別協賛金	368,000	370,000	人	備品消耗費	150,000	150,000
法	人寄付	1,763,800	1,800,000	政	事務所費	20,000	20,000
個	人寄付	2,443,000	2,450,000	組	織活動費	6,401,743	6,280,000
雑	収入	8	1,738	組	織活動費	2,787,625	2,600,000
当	初運営資金繰入金	0	300,050	調	査研究費	191,200	150,000
前	年度繰越金	718,889	338,212	寄	付金交付	1,946,400	1,960,000
歳	入合計	7,129,697	7,100,000	研	修費	1,307,023	1,350,000
				一	都七県会議費	109,060	120,000
				そ	の他の経費	60,435	100,000
				運	営基金積立金	150,000	150,000
				一	都七県積立金	100,000	100,000
				運	営資金積立金	50,000	50,000
				当	初運営資金繰出金	0	300,050
				予	備費	0	119,950
				歳	出合計	6,791,485	7,100,000



金品寄付者に対して感謝状贈呈

- 立 富士御室浅間神社 小佐野
- 会、優白会、蒼丘会
- 八王子神社・筒口神社 辰巳
- ◆南都留支部
- ◆東北支部
- 諏訪神社 板山国男
- ◆東北支部
- 神社本庁総裁
- ◆東北支部
- 武田八幡宮 大村智
- 神社本庁長
- ◆東山梨支部
- 諏訪神社 神子澤睦男
- ◆南支部
- 諏訪神社 株式会社伊藤企画
- 社長 伊藤俊彦、株式会社古
- 関工業社長 赤池孝教
- ◆東北支部
- 神社本庁総理
- ◆東北支部
- 武田八幡宮 一般財団法人
- 葦崎大村財団 理事長 大村朔
- 平、株式会社横内工業 代表
- 取締役 名誉会長 横内良隆、
- 旭陽電気株式会社

山梨県神社庁協議員会開催報告

議長 桃 井 一 祝

山梨県神社庁定例協議員会が、八月六日山梨県神社庁二階会議室において午後一時から開催された。

修祓、神殿拝礼、国歌斉唱、敬神生活の綱領唱和、物故者への黙祷の後、小佐野正史庁長により、令和五年度庁務概要がありました。

引き続き、事務局より協議員三十四名のうち二十六名の出席があり、規則により協議員会が成立する旨の報告がなされた。議事では第一号議案「令和五年度神社庁業務概要報告の件」第二号議案「令和五年度歳入歳出決算報告の件」第三号議案「神社庁資金現金現在高報告の件」第四号議案「監査報告」が一括上程された。事務局より説明の後、佐々木監事より監査報告がなされた。特段の質疑、討論なく採択した結果協議員異議なく承認された。

次いで第五号議案「令和六年度歳入歳出予算(案)の件」が上程された。事務局より、一都七県当番県助成金の七年度より廃止、会館維持資金積立金の増額がある等の説明がされた。特段の質疑、討論なく採択した結果協議員異議なく承認された。

次いで第六号議案「その他」が上程され、神政連本部長より衆参選挙のお願い、令和七年三月二十六日に靖國神社参拝研修がある旨の説明がされた。その他何もなく協議員会は閉会された。

山梨県神社総代会評議員会開催報告

山梨県神社庁事務局

山梨県神社総代会定例評議員会が八月六日山梨県神社庁二階にて開催された。

修祓、神殿拝礼、国歌斉唱、敬神生活の綱領唱和、物故者への黙祷の後小尾総代会長より挨拶がなされ、その後小佐野庁長より挨拶がなされた。

評議員会当日は議長が欠席の為、副議長の高野氏が議長席につき事務局に評議員会の出席状況の報告を求めた。事務局より評議員三十二名中三十一名(委任状を含む)の出席があり、規程により評議員会が成立する旨の報告がなされた。

議事では第一号議案「令和五年度事業報告」、第二号議案「令和五年度歳入歳出決算報告の件」、第三号議案「神社総代会資金現金現在高報告の件」、第四号議案「監査報告」が一括上程された。事務局より説明の後、小野監事より監査報告がなされ

た。特段の質疑・討論なく、採決した結果会員異議無く承認された。

次いで第五号議案「令和六年度事業について」、第六号議案「令和六年度歳入歳出予算(案)審議の件」の二議案が一括上程された。事務局より上程内容について説明が行われ、特段の質疑・討論なく採択した結果会員異議無く承認された。

次いで第七号議案「その他」を上程したが、特段何もなかったため副議長は議事を終え、評議員会は閉会した。

神政連山梨直本部代議員会開催報告

副本部長 渡 邊 學

神道政治連盟山梨県本部定例代議員会が八月十九日山梨県神社庁に於いて、開催された。

修祓、神殿拝礼、国歌斉唱、神政連宣言、綱領唱和、物故者への黙祷の後、渡邊平一郎副本部長より挨拶があり、その後小佐野正史庁長より挨拶が有り、その後、神政連山梨県本部代議員会議長秋山氏が議長席につき事務局に代議員会の出席状況の報告を求め、代議員十九名の出席が報告された。

議事では第一号議案、令和五年度事業報告、第二号議案、令和五年度神政連山梨本部歳入歳

出決算報告の件、第三号議案、監査報告の三案が一括上程され事務局より説明の後、日原監事より監査報告があった。質疑、討論なく採択の結果異議無く承認された。

次いで第四号議案、令和六年度事業計画について、第五号議案、令和六年度歳入歳出予算案、審議の件の二案が一括上程され事務局より上程内容について説明が行われ異議無く承認された。

次いで第六号議案、第二十七回参議院議員選挙推薦候補の件について、渡邊平一郎副本部長より神道政治連盟中央本部推薦候補者について説明があり、比例代表区に有村治子参議院議員を推薦する事が決定した。

神政連山梨県本部の推薦者について山梨選挙区では森屋宏氏を比例代表区では赤池誠章氏と有村治子氏の三名の推薦を説明採決した結果異議無く承認された。

第七号議案、その他として渡邊平一郎副本部長より靖國神社参拝旅行について、実施日は三月二十六日に決定しているが意見を求めた、参加者の募集人数や見学場所について意見が出された、参加者が多いと昼食場所が制限される為、執行部に一任で議事を終えた。

尚定例代議員会に先立ち午後一時より役員、代議員が山梨県護國神社に正式参拝を行った。

神宮大麻曆頒布始祭

峡南支部長

山本 純 司



本年四月、天皇陛下より「御聴許」をいただき「式年遷宮」の準備が本格化していくこととなりました。その遷宮奉賛活動の基である神宮大麻曆頒布始祭及び神宮大麻曆頒布表彰式・秋季推進会議が、九月十七日神宮内宮神楽殿、神宮会館にて執り行われ、本県では、小佐野庁長被表彰者である桃井一祝美和神社宮司、飯田参事、私の四名が参列しました。

十六日午後、外宮の御垣内参拝を行う中、古殿地には新たに設置された令和十五年式年遷宮御敷地の表示板を目の当たりにして御遷宮への奉賛の思いを肝に銘じた中、夕刻より神宮大宮司主催の招宴が開催され、全国より約二百名の方々と親睦を図るよい機会となりました。

十七日朝、内宮特別参拝後、神楽殿にて神宮大麻曆頒布始祭

が斎行され、齊藤少宮司により祝詞奏上、久邇大宮司以下祭員が八度拜を行った後、鷹司統理が玉串奉奠、参列者全員で拜礼撤饌後、神前から撤下された神宮大麻・曆が久邇大宮司より鷹司統理に授けられました。祭員退下後には、鷹司統理と田中総長が各神社庁長に大麻・曆が授受され、引き続き神社本庁より太々御神楽が奉納されました。

午後一時、神宮大麻曆頒布表彰式・秋季推進会議が神宮会館にて開催され表彰式においては特別優良奉任者として、美和神社宮司桃井一祝（神社庁協議会議長）氏が全国の被表彰者と共に久邇大宮司より表彰の栄を賜りました。引き続き秋季推進会議が開催され、令和五年度神宮大麻曆頒布数、令和六年度神宮大麻曆交付数について報告があり、頒布事例報告では東京都神社庁の神宮奉賛及び大麻頒布についての報告がありました。東京都は年少人口及び生産年齢人口（〇〇〜六四歳）が七十七％ということもあり、アニメキャララッシュやラッピングバス、パネル神棚などの取り組みなど若い世代に重点を置いた広報に取り組んでいるが、インフルエンサーの誤った発信が散見されるので神社本庁の正しい知識を広めるよう強力に発信してほしいとのことでありました。

平日とはいえ、神宮には多くの参拝者があり、若い世代また

外国の方の姿も多く見受けられ、そのことが直接増体に結びつくかどうかは不確定ではありますが、社頭や外祭での広報は講話総代の皆様方との連携強化など根気強く継続していくことが肝要であり、理解普及を図ると共に私達自身も自己啓発、自己研鑽に励むことも求められるのではないかと思います。

山梨県神社庁顧問参与会

石和八幡宮 宮司

土橋 英



先日神社庁より参与就任依頼の通知が届きました。まさに「晴天の霹靂」であり、戸惑いもありました。「参与」という言葉の意味を紐解くと、学識・経験のある者を行政事務などにあずからせるための職、専門的な知識や豊富な経験を持ち合わせ組織の上層部や経営陣を補佐する役職や立場云々とあります。神職として初任より三十六年間の内、ほぼ大半がサラリーマンとの兼業神職であった為、神社庁関係はもとより、奉務社にも一意専心の奉務や貢献が出来ず今日を迎えた私です。今後皆様と同じ様に職責を果たして行く事に不安が残るところではあります。神職としての人生の一つの区切り、転換点と捉えこれを機に諸々勉強

し直すつもりで勤しんで参りました存じます。今後、神社を取り巻く環境も大きく変わろうとしています。人口減少や少子高齢化に伴い氏子数や崇敬者等の減少がさらに進むことにより、神社の維持運営が困難となり、例祭等の年中祭事の執行に支障を来す状況が懸念される所々であります。今を生きる私達は、ゴールの無い駅伝競争の現区間を走る一ランナーとして、先人達より受け継いだ襷を限られた年月時間の中で、確実に次世代へ後世へと渡して行かなければなりません。神社が精神文化の拠点として、人々の心の拠り所であり続けるために、さらに「祭り」が地域活性化の源泉であり続けるために何をすべきか、大きな課題であり、私自身解決する程の技量や才覚はありませんが、微力ながらも取組んで参りたく存じます。此の度参与として先輩諸氏の皆様の末席に加えて頂く事と相成りました。今後共諸事御指導の程、宜しくお願ひ申し上げます。



絵本 日本の神話
 神武天皇 (第五話)



さく・え たたら なおき

お子さん、お孫さんと、
 神話の世界をお楽しみ下さい。

「一般財団法人 日本文化興隆財団」提供
 問い合わせ 東京都渋谷区千駄ヶ谷四―五―十
 電話 〇三―五七七五―一一四五
 一冊 二〇〇円



「よし、今だ！」

「イワレヒコ」の号令で、
全員しほりあげられました。

「あく、やられた、まいりました。」

「よし、あとは」

ナガスネヒコをたおすのみだ。

いざ、最後の戦いにのぞむぞー！」

「えいえい、おー！」

イワレヒコが声をあげました。

「私の兄イッセンミコトは、おまえの手によって」

死んでしまった。

もし私に従えば、その罪は許してやるぞ。

ぶっだっ！」





すると、ナガスネヒコは……。
「んやう。」

この国の王はわしじゃ。

従うのはおまえらじゃー！」

そこでイワレヒコは叫びました。

「みなもの者、かかれー！」

戦いの最中

突然、バラバラバラツと

冷たいひょうが降ってきました。

「いたい、いたい！」

きつと天がおこってるんだ。」

だれもが戦う気力をなくしてしまいました。

しかし、イワレヒコはひとり立ち上がりました。

「最後まで全力で戦うのだ。」

きつと天はわれわれに味方してくださいさるー！」





全国神社総代会大会

峡北支部 総代会長

江 上 年 秋



去る令和六年九月十一日第五十九回全国神社総代会香川大会に山梨県神社庁長小佐野様、同神社総代会会長小尾様をはじめ役員の皆様、並びに峡北支部長石原様同行の許、出席し、全国総代会規程表彰を拝受いたしました。受賞にご尽力戴きました神社庁をはじめ関係各位の皆様

に深く感謝申し上げます。大会は香川県で採掘される珍しい自然石「サヌカイト」と、讃岐太鼓の演奏に迎えられ、武道家、藤岡弘先生による講演を拝聴しました。その中で、今我々の使命は、神道の歴史と伝統文化のすばらしさを持つて子供たちの人間性を育てることだと熱望されました。

式典では、全国総代会長のご挨拶を戴き、御臨席を賜った神社本庁統理様をはじめ来賓の皆様から御祝辞を戴きました。また時恰も第六十三回式年遷宮斎行の御聴許を拝した本年、新たな決意と覚悟を以って共に邁進

することを誓われました。改めて神社総代の責任の重さを感じた次第です。

大会では、今年度の実践目標及び大会宣言が決議され、我々神社総代は地域に戻って実践躬行することにより地域の発展に神社が大きく寄与できるものと確信しました。

私が総代を拝命した武田八幡宮では、御鎮座千二百年祭をはじめ、大村智博士や氏子、地域住民のご尽力及び多くの奉賛者の協力を戴く中で神社の環境整備に努め、ようやく当初の目標を達成しました。神社は氏子、地域住民が一体となってお守りしてきた永い歴史があり、受け継がれてきた地域との繋がりを大事にし、その精神を未来に受け継いでいくことが我々の使命であると痛感しています。

武田八幡宮は武田信義公以来武田家の氏神としての歴史があり、近年観光面でも脚光を浴び多くの人が参拝に訪れています。参拝客が気持ちよくご参拝戴けるよう今大会の実践目標をしっかりと心に刻み、総代としての神社をお守りする覚悟です。

南都留支部 総代会長

三 枝 正 満



令和六年九月十一日、香川県県民ホール「レグザムホール」で開催された。第五十九回全国神社総代会大会において、表彰規程第二条第一号該当者として拝受の栄に浴し身の引きしまる思いです。

会場は、全国四十七都道府県から一千七百余名が参加しほぼ満席の状態でした。式典に先立ち、打楽器奏者白杵美智代先生の「サヌカイトの調べ」の演奏がありました。サヌカイトとは香川県で産出される世界的に珍しい自然石で、木槌で叩くと神秘的で澄んだ音色を奏でるところから、カンカン石と呼ばれています。つづいて讃岐国分寺太鼓保存会の「和太鼓の調べ」演奏に引き続き、俳優・武道家で活躍中の藤岡弘先生の「神道と武士道」と題して講演がありました。

式典は、開会の辞で始まり、神宮遙拝・国歌斉唱、二回、敬神生活の綱領唱和と心が引き締まった想いでした。総代会長式辞では、本年四月八日、天皇陛下におかせられては、第六十三回神宮式年遷宮について「御聴許」遊ばされた。これにより令和七年から十五年にかけて木本祭などの祭典・諸行事が順次執行されることとなります。神

宮奉賛を実践目標の一つに掲げてきた神社役員・総代は、この国家的大事業に向けて思いも新たに、結束して御遷宮の啓発活動に協力するとともに、神宮大麻領布推進活動に取り組んでいかねばならない。さらに、神社総代は、神宮奉賛と奉務神社の興隆、地域共同体の再生に向けて、神社庁・関係団体とも手を携へつつ、力を尽くさねばならないと述べられました。また、神社本庁統理鷹司尚武様・神宮大宮司久邇朝尊様はじめ、来賓の方々より祝辞を頂きました。神社功労者表彰では、全国から参加した六十一名の被表彰者名が呼ばれ代表者に表彰状が授与されました。受賞者謝辞では、香川県八幡神社役員立石信彦様がこれからの総代活動の決意表明がありました。次期大会は長野県に決まり長野県総代会長より決意表明がありました。最後に「聖寿万歳奉唱」を全員で行い今大会を終了いたしました。結びにあたり、このたびの規程表彰の拝受に身余る光栄であり、奉務神社北口本宮富士浅間神社宮司上文司厚様のお力添えに感謝いたします。今回の拝受は、県内多くの総代の皆様を代表してのものであります。今後とも神社・総代会の奉務を誠心誠意勤めて参ります。神社庁、総代会の皆様には、より一層の御指導御鞭撻の程宜しくお願ひ申し上げます。

神政連山梨県本部地方議員懇談会

本部長 渡邊 平一郎

令和六年八月十九日神社庁に於いて、神政連山梨県本部地方議員懇談会総会が開催された。開会儀礼の後、浅川力三地方議員懇談会々長の「神政連と協力して様々な課題に取り組み」との力強い挨拶があり、来賓として出席した本部長、庁長、赤池誠章参議院議員、堀内詔子衆議院議員の挨拶そして他の来賓の紹介があり議事に入った。



望月勝議長の進行により、令和五年度活動報告、決算報告が白壁賢一幹事長より報告され、監査報告の後承認された。続いて、令和六年度の活動方針、事業計画案、予算案も提出議案通り可決され、杉山肇監査の辞任により空席であった監査に渡辺淳也議員を選出して総会が終了した。自民党に所属する二十五名の県会議員全員が入会し、神政連の活動を理解し共進していただいている現在を思うと感慨深いものがあります。

場所を移して、シャトレーゼホテル談露館にて懇親会が開かれ、テーブルごとに選挙区の議員と神政連の代議員との懇親が計られた。

山梨県遺族会青年部発足

山梨縣護國神社 榎宜 羽中田 康 司

日本遺族会では、慰霊顕彰を後世に伝える為に全国四十七都道府県の遺族会に対し青年部の発足を呼び掛け、山梨県においても四十二番として発足された。この青年部は、御英霊の孫と甥姪で構成され遺児より慰霊顕彰を引き継ぐ事が目的とされている。山梨県では、会員数も二十名余と少なく今後の活動や事業に関して、護国神社との繋がり方も決まっていない現状の様であるが、県遺族会内で試行錯誤を重ね青年部の会員数を増やす事を目標に掲げ活動を続けていく様である。御遺族の高齢化も加速し孫や甥姪の年齢も五十代から六十代が中心となる事を考えると戦後七十九年を迎え慰霊顕彰を伝える難しさを感じるのである。また、御遺族の英霊への想いも年々希薄になってきている現状にあり、護国神社への御参りも少なく祭典に対しても御協力を頂けない事が多くなってきた。他の道府県の護国神社では、既に御遺族に頼らない運営を始めている神社もあると聞かすが、当社では御遺族に頼りきり胡座をかいてきた。

今後の神社維持も困難であり切実な問題になってきている。他の護国神社も維持運営に苦慮している様だが、発足をした遺族会青年部と護国神社とで連携し慰霊顕彰と護国神社の維持を考え活動する事が大切になるだろう。

筆者の私感であるが、遺族会には青年部という新しい風が吹き込んだ。当社の官司も高齢となり近い将来には退任となるであろう。新しく就任される官司のもとで職員神職を一新して頂き護国神社にも新しい風を吹き込んでほしいと願うのである。

私も御英霊の孫として神社職員から遺族に立場が変わったとしても外から護国神社を支える事が出来たら幸いである。



禊錬成研修会報告

神道青年会

教化部長 溝田哲司

七月十日（水曜・仏滅）、甲府市岩窪町「つづじヶ崎温泉」に於いて山梨県神社庁研修所主催、山梨県神社庁教化委員会主管による禊錬成研修会が行われました。県内神職二十一名が参加し、青年会員が中心となり事前準備や当日の諸準備、禊錬の舗設などを行いました。今回新型コロナウイルス感染症の流行により久しぶりの講習であり、会場の変更など多くの事が変わりましたが、諸先輩方の助言により準備を進めることができました。助彦の北口本宮富士浅間神社権禰宜の竹笠先生により鎮魂と禊錬成の講義が始まりました。先ず午前中の講義では、鎮魂の作法や心構えを説明の後、

実際に鎮魂を行いました。今まで鎮魂行法に則った作法を経験がなかったため非常に勉強になりました。昼食後、禊錬行法における振魂、祓詞、鳥船、雄健、雄詰、氣吹と一連の作法をご指導いただいた後、実際に禊錬行法を行いました。つづじヶ崎温泉のプール施設を借り講義で教え

て頂いた手順で禊を行いました。想像していた以上の水の冷たさと禊錬行法中に雨が少し降ってきたこともあり、プールに入った後、身が引き締まるのを感じると共に、清々しく心が洗われていくのを感じました。その後は温泉に入り改服、閉講式となりました。

今回初めて禊錬成に参加させていただき、禊や鎮魂について学べた大変貴重な研修となりました。新型コロナウイルス感染症の影響でまだまだ多くの事が思うようにいかない中、今回ご指導いただいた竹笠先生そしてお世話になりました諸先輩方の皆様のおかげで無事に最後まで教わる事が出来ました。本当に有難うございました。この講習での学びを今後の神明奉仕に努めていきたいと思えます。



敬神婦人連合会全国大会

会長 古屋真紀子

第七十四回全国敬神婦人大会北海道大会が九月二十七日に札幌パークホテルにて開催されました。コロナ禍の為、北海道大会は延期になり三年越しの開催となりました。全国から八〇〇人が集いました。本県からは十六人が参加しました。

大会前日には、苫小牧総鎮守「樽前山神社」を正式参拝。苫小牧市唯一の神社で樽前山を神山、ご神体と仰ぎ市民から親しまれているとの事でした。その後、国立アイヌ民族博物館「ウポポイ」で伝統芸能を観劇しました。登別温泉に宿泊し、ホテルで参加者の皆さんと交流を深めました。

大会当日は、午前中「北海道神宮」を自由参拝後、大会開催場所に向かいました。記念清興のよさこいソーランの演武の後、式典が開催され、鷹司久美子会長の式辞に始まり、次に議事に入り、令和五年度会務報告として「地方団体との交流」「社会福祉活動」「国旗小旗について」「女子学生への奨学金支給付」「単位会の異動」などがありました。令和五年度会計決算報告、令和六年度予算案、活動

方針、事業計画案の説明があり満場一致で決定しました。記念講演は、北海道増毛町出身の世界的に有名なシェフ三國清三氏の「三流シェフの七十歳からの挑戦」でした。家が貧しく十五歳から働き始め全く経験のない料理の世界に入り、努力を重ねてオーナーシェフになり有名レストランを切り盛りしていました。七十歳手前で少人数の方をおもてなしする店に方向転換し、企業と協力して増毛町の発展にも力を注いでいくというお話を拝聴しました。三日目は小樽を散策して帰宅の途につきました。北海道の歴史文化に触れて、会員の皆様とも交流を深める事が出来ました。来年は青森県で大会が開催されます。多くの方の参加を期待しています。



女子神職会祭祀舞研修報告

愛宕神社

権禰宜 小山 真由

山梨県女子神職会豊栄舞研修会が令和六年八月二十九日午前九時より山梨県神社庁二階神殿にて開催されました。講師として小篠神社宮司の宮下富枝先生をお招きし、女子神職会の皆様とともに参加いたしました。幼い頃に甲斐惣社八幡神社にて豊栄舞と浦安舞を奉納した経験があり、女性しか舞うことができない豊栄舞を基礎から学びたいと思ひまして、講習に参加いたしました。

研修では、豊栄舞に一部変更があったことから一から振付を学びました。宮下先生は、一人一人に丁寧に振付を教えてくださいましたし、正しく舞えるよう練習を重ねることができたため、午前の研修で参加者全員が振付を修得することができました。また、練習の間、豊栄舞は舞楽が由来であることや曲の速度や間奏が過去変更された経過があることなど知識を得ることができました。

午後の研修では雅楽に合わせ



て練習を行いました。豊栄舞の歌詞が神の恵みに感謝する内容であり、それが振付で表現されていると強く実感いたしました。また、雅楽とともに舞うと、自分が舞い易い様に舞ってしまうこともございました。舞は自己満足ではなく、神様に奉納し、お喜びいただくためにあることから、「正しく舞うこと」がいかに重要であるか再認識いたしました。

豊栄舞研修会を通して、女性の舞を修得し、神様にお喜びいただくことや次世代に継承していくことは、女性神職の使命であると感じました。私にとってこの研修会は自分の神職像を変える経験であったと感じております。参加できましたこと、深く感謝申し上げます。

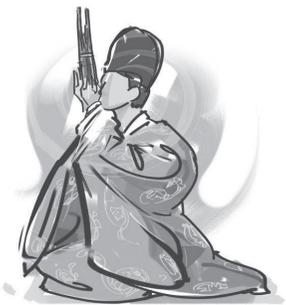
神道雅楽会研修会報告

北口本宮富士浅間神社

権禰宜 上文司 旭

此の度、初めて山梨県神道雅楽研修会に参加致しました。北口本宮富士浅間神社、権禰宜の上文司旭です。先ずは、秋山会長はじめ、雅楽研修会にお招きいただき誠にありがとうございました。社務の都合上、研修会は初日のみの参加でしたが、宮内庁式部職楽部の池邊先生による丁寧なご指導、そして雅楽会の素晴らしい運営の下、大いに練習に励むことができました。池邊先生とは、以前奉仕していた神社の雅楽練習にもお世話になっており、先生との貴重なご縁をいただき大変感謝しております。このご縁を大切に、これからも先生との練習会は積極的に参加していきたいと思ひます。奉務神社で雅楽を演奏する機会は、祭典や結婚式ぐらいなので常日頃から演奏、練習することがなく、指の押さえ方や息の返し方等、基本的な部分を忘れかけていたところでした。今回の研修会では、基本的なところを越えて難易度が高く、大変でし

たが一つ一つこなしていくことに、充実感を味わうことができました。今回の研修会を通じ、改めて日頃からの雅楽の練習が大切であると痛感いたしました。また、練習の継続をしていくためにも、少しでも時間をみつけて雅楽に尽力していこうと思ひます。雅楽はまず拍をとるところから難しく、演奏するまでに相当な準備を要すると再度実感しました。雅楽に触れてから、六年目ですが、また原点に立ちかえり基礎を固められるよう練習を積み重ね、応用力を身に付けていきます。一日間のみの研修でしたが、非常に意義のある学びの多い一日でした。厚く御礼申し上げます。ありがとうございます。



支部だより

峡中支部

副支部長 小林 英 孝

新型コロナウイルス五類感染症への移行を機に五年ぶりに、伊豆国一宮三嶋大社参拝と沼津御用邸公園の旅が実施されました。

令和六年三月八日に内藤支部長、齋藤支部総代会長を始め、神職、総代関係者の三十二名が参加しました。

富士南麓の残雪をバスの車窓から眺めながら、午前中に三嶋大社に到着、正式参拝は、支部長が代表で玉串を奉奠し、参拝終了後、神職の案内にて本殿裏に入り、社殿の彫刻を拝観しました。

本殿には、総樺素木造の至る所に優れた彫刻が施されていて、建物の大きさと精巧な彫刻は、実に見事でありました。

三嶋大社を後にして伊豆フルーツパークにて昼食を取り、沼津御用邸公園に向かいました。

御用邸は、沼津市の島郷海岸に面した黒松林の中にあり、大正天皇のご静養先として造営さ

れました。先の大戦で本邸は全焼しましたが、周囲の附属邸が現存し、昭和四十五年から一般開放されています。今回は、三班に分かれ案内人の説明を受けながら西附属邸を中心に見学しました。

部屋数二十六室の木造平屋建は、国を代表する貴重な宮廷建築で、謁見所には畳敷きの上に絨毯が敷き詰められ、椅子やテーブル、シャンデリアなどの調度品からは和洋折衷の当時の質実な生活ぶりを垣間見ることが出来ました。

神職、総代関係者が交流を深め、充実した日程の中で無事、帰途につきました。



南都留支部

山中諏訪神社

総代 槌屋 昌彦

地元の氏子総代として今年度初めて山中湖諏訪神社例大祭の運営に関わらせていただきました。幼い頃からこの祭りを楽しんできた私ですが、運営側として携わることが、想像以上に大変なことでした。全ては初めての経験であり、祭りに必要な用具等の準備、境内の整備や関係各所との調整など、多岐にわたる業務は分からない事ばかりで、きちんと役を果たせるのか心配でなりませんでしたが、宮司、禰宜の御指導や総代、区会の方々との協力で準備が進んでいきました。特に村の方々に仕事を依頼した時の「大丈夫、任せよ。」という言葉は何よりの心の支えでした。

九月一日の早朝、雨の中、山道を登りきった所にある奥宮での霧に包まれた神聖な神事から祭りは始まりました。

祭り当日はコロナ禍明け二年目ということもあり、多くの人々が集まり、お札頒布、祈禱などそれぞれが忙しく動き、そのサポートをしました。一息つ

きお旅所の本殿から、子授けを願ひ百度参りをする方、赤ちゃんを抱きお札参りに手を合わせ参拝者の姿はこの祭りの大きな意義を感じる光景でした。

祭りのクライマックスでの神輿奉仕者の力強い姿、そして、祭りが終わった際の割れんばかりの拍手を見て、大きな安堵とともに、これまでの総代の皆との頑張りがいと思われ、胸がいっぱいになりました。地域全体が一体となって作り上げる、この安産祭りは何物にも代えがたいものであると改めて感じました。

この経験を通して、地域の一人としての責任と、祭りの伝統を受け継いでいくことの大切さを改めて実感しました。



祭典を斎行して

金櫻神社拝殿竣工祭を終えて

宮司 小田切 宣 幸

当社は金峰山五丈岩を磐座と仰ぎ仁寿元年、現在の奥宮の地である袖口米澤山に創建、正徳二年現在の地に里宮を遷座して以来、氏子崇敬者の敬神の誠により、その尊厳と祭事を守り伝えてまいりました。然し乍ら、旧拝殿は安政四年に造られ老朽化が著しく、再建が急務の状態となっておりました。再建に向け動き出したのは平成始め、積立を重ね平成二十一年に準備委員会、平成二十九年に拝殿建設委員会を設立、令和三年社殿再建事業を決議しました。厳しい社会情勢下で、更には氏子各地域においても其々の神社を護持している中で活動には時間を要しましたが、氏子地区、崇敬篤志を合わせて目標を上回る御奉賛を賜り、御蔭を持ちまして事業着手となりました。令和三年十一月、境内の百年を超える杉や桧を社殿御用材として山口祭御杣始祭を斎行、令和五年四月棟切祭、同年五月五日地鎮祭、

同年十二月上棟祭、令和六年八月十一日、遂に歴代宮司の願いでありました拝殿御造営事業の竣工祭を迎えました。当日は多くの参拝を願い、午前に関係者五十名の列席する新殿奉告祭を斎行、式典及び感謝状贈呈を執り行いました。午後には一般の方々の竣工祭昇殿参拝祈願を行い二百名近くの参拝者で賑わい、多くの方の笑顔と共に記念すべき祭典を御奉仕することができました。改めて事業完遂の導きに、心より感謝申し上げます。今後とも代々受け継がれてきた此の神域を次の代に繋ぐべく、報本反始の心を以て神明奉仕に勤めて参ります。此の静寂な山間の麗しい神域に是非ご参拝ください。

八ヶ岳開山式祭

建部神社

宮司 石原 貞 夫

令和六年七月一日、北杜市の観光協会の会長を始め北杜市長・警察署長・各山岳会の会長等の諸役の人等のもと八ヶ岳山開祭を斎行した。

明治以前は、山に入る人々は

信仰や狩猟の為で有り、入山はとも神聖なるもので、なぜなら神が宿る所であるからで、里山とは区別して、入山する時には、言葉も山言葉と里言葉とこえていた江戸時代まで永きに渡り日本の文化として継続した。明治になり文明開化という波に押され西洋の文化等が流入して来た中の一つに、レジャーやスポーツとして山に登る様になった。特に有名なのが英国人宣教師であったウォルタ・ウエストンが日本に滞在していた十四、五年の間に富士山を始め全国の山に登頂し、飛騨山脈を「日本アルプス」とウィリアム・ガウランドが命名したのを引用し「日本アルプス登山と探検」として明治に刊行し日本アルプスと言う名前が知られるようになった。このウエストンがもち込んだレジャー・スポーツ登山が始まりで様々の山岳会が出来、登山が一般の人々にまで広がり日本各地の山岳部で山開きの御祭りが行われるまじになつて来た。

ただ日本古来から登拝の文化が西洋のレジャー・スポーツ登山に凌駕されつつあり、一つの

例として山の名前を取つてみても日本アルプス、南アルプス、北アルプスなどこんな名前の山は日本にはないのです。日本本来の名前を聞いても答えられない人が多いのが現状であるに思われるので、山開きの御祭をする前に、信仰の為でも狩猟の為でもなくスポーツ、レジャーの為、健康の為に登山をするという事は、自分の為だけの事で山に入る事であり生態系、自然環境などにどの様な影響を及ぼすかという思いが気薄の人がいる様なので、限らず私が言うのは、山は神聖な場所であり、山頂には祠があり神様が祀られている事など、又自然との調和を考え人間も自然の中の一つである事などを説明し祭りを斎行する事としていきます。



第二十一回 初任神職研修会

研修所 訓育主任

乙 黒 洋

七月二十七日と二十八日並びに八月三日と四日の四日間の日程により、山梨県神社庁を会場とし、「第二十一回初任神職研修会」が開催され、九名の研修生が受講しました。受講生の大半が他の職業に就きながら、神職としての歩みを始めたばかりということで、初々しい雰囲気にも包まれる中、各々が緊張した面様で初日の開講式を迎えました。各講義講師は山梨県神社庁研修所の講師陣が務め、初日は、小山利行先生の「神職奉務心得（敬神生活の綱領）」・桃井一祝先生の「祭祀関係実技」。第二日目は、飯田直樹先生の「神社実務」・中村宗彦先生の「神宮について」。第三日目は、金子壽元先生の「神職奉務心得」・古屋真弘先生の「神社本庁憲章」・飯田直樹先生の「神社実務」。第四日目は、上文司厚先生の「神社本庁史」・小佐野正史先生の「講話」と多くの講義となり、その講義の間には、私の「訓育指導」の講義も組み込み、受講生皆がこの研修で必ずや何かを得ようと、真剣な眼差

しで聞き入っておりまして。更に二日目より四日目の夕刻にはレポート執筆があり、講義を踏まえての自身の想いをしたためておりました。受講生九名誰ひとり欠けること無く閉講式を迎え、小佐野山梨県神社庁研修所長より、受講生を代表して大村康太郎君が修了証を受け、小佐野重正君が謝辞を述べました。この九名がこれからの斯界の発展と神道興隆のために、一意専心にして、切磋琢磨する事を切に願う次第であります。

日吉山王神社

禰宜 大 村 康太郎

社家でない私にとつて、神職の礎をなす、心の有り様、徳性、素養、知識、経験等すべてが己に備わっていないことを痛感する初任神職研修会となりました。研修では次の二つのことが特に心に刻まれました。

まず、神社の尊さは不動だが、仕える者の素質によりその有り様は千変萬化しようということ。神職として素養を高めるか否かにより神威発揚に差異が生ずる可能性がある、と先生方が共通して教えてくださったことが印象的でした。肝に銘じ、心に刻もうと思いました。

次に本研修の存在についてであります。研修では本当に多くの気づき、学びを賜り、初任神職として自分に何が足りていないのか、それを明確に突きつけてくださる機会は大変少なく、身に心に有り難いと感じました。最後になりますが、最大の熱量を以て各講義を教えてくださいました先生方、研修を支えてくださった事務局の皆様、ともに研修を受講し様々教えてくださいました同期の皆様にもこの場をお借りして感謝申し上げます。

甲斐奈神社

禰宜 中 川 麻 里

令和六年七月二十七日・二十八日、および八月三日・四日に山梨県神社庁で第二十一回初任神職研修会が開催され、男女合わせて九名の参加者の方々とともに受講いたしました。

本研修は、新たに任用された神職が、神社本庁および神社庁の組織を理解し、神職としての自覚と連帯感を養うことを目的としています。小山利行先生はじめ、総勢九名の講師の先生方による、神宮に関する知識、神職奉務の心得、神社本庁史、祭祀実技、神社実務など、幅広い

内容の講義と実技演習が行われ、神職としての基礎を幅広く学ぶ貴重な機会となりました。

講師の先生方からは、神職として日々心がけるべき教えを頂き、実務面でも多くの学びを得ることができました。また、同期の方々との交流も深まり、学びと成長の多い有意義な研修となりました。

今後この研修で得た知識や経験を活かし、神職としての務めはもちろんの事、一神道人として大神様等へ日々の感謝と神教えを胸に神明奉仕に励んでまいります。



振り返る 第六十二回神宮式年遷宮

※むすび令和七年版より転載

日付は上から内宮・外宮の順。 ※は天皇陛下が日時をお定め(御治定)になる重要な祭典

平成24年	平成21年	平成20年	平成19年	平成18年	平成17年										
檐付祭 5月23日 25日 完成間近となった御正殿の屋根に葺き始める祭儀。	上棟祭 ※ 3月26日 28日 御正殿の棟木を上げる祭儀。一般の棟上に相当する。	御形祭 3月4日 6日 御正殿の東西の束柱に田形の裝飾(御形)を穿つ祭儀。立柱祭の日の午後に行われる。	立柱祭 ※ 3月4日 6日 御正殿の御柱を最初に建てる祭儀。御柱を木槌で打ち固め、御正殿の安泰を祈る。	宇治橋渡始式 11月3日 新しく架け替えられた宇治橋の渡り始め。戦後、遷御の四年前に行われるようになった。	鎮地祭 ※ 4月25日 同日 新御敷地の平安を祈る祭儀。新御敷地での最初の祭儀で、一般の地鎮祭に相当する。	御木曳行事(第二次) 5月7日 第一次と同様、内宮は五十鈴川を木曳(カワヒキ)外宮は巨大な御木曳事で陸曳する。	仮御樋代木伐採式 5月17日 遷御の際、御神体を仮に納める「仮御樋代」と「仮御船代」の御用材を伐採する儀式。	御木曳行事(第一次) 5月7日 旧神領民と全国の崇敬者が二月月にわたり御用材を両宮へ曳き入れる盛大な行事。	木造始祭 ※ 4月21日 同日 造営工事の開始にあたって作業の安全を祈る祭儀。御木曳初式で運ばれた木に忌斧を打ち入れる。	御木曳初式 4月12日 13日 伊勢市の住民(旧神領民)が造営用材を両宮に運び入れる。役木曳ともいう。	御船代祭 ※ 9月17日 19日 御樋代を納める「御船代」の御用材を伐採する祭儀。	御樋代木奉曳式 6月9日 10日 木曾で伐り出した御樋代の御用材を伊勢まで運び、両宮(内宮・外宮)域内に曳き入れる。	御杉始祭 6月3日 同日 御神体を納める「御樋代」の御用材を伐採する祭儀。「三ツ緒伐り」という古式作法で伐る。	木本祭 ※ 5月2日 同日 御正殿床下に建てる特別な柱「心御柱」の御用材を伐採する。山口祭の日の深夜に行われる秘祭。	山口祭 ※ 5月2日 同日 式年遷宮の開始を告げる祭儀。造営用材を伐採する御杉山の神に安全を祈る。

平成25年	平成24年
御神樂 ※ 10月3日 6日 宮内庁の楽師が御神樂および秘曲を奉奏する。夕刻から深夜まで奏でられる。	葺祭 7月21日 23日 屋根を葺き終わり、葺や干木に飾り金物を取り付ける祭儀。
御神樂御饌 10月3日 6日 遷御翌日、御神樂の奉納に先立って大御饌を奉る。儀式の次第は大御饌と同じ。	御白石持行事 7月9日 新御敷地に白石を敷き詰める行事で、御正殿そばまで入ることが出来る唯一の機会。
古物渡 10月3日 6日 遷御翌日、古殿に残されていた神宝類を新殿の西宝殿に移す儀式。	御戸祭 9月13日 15日 御正殿に扉を取り付け、鍵穴をあける。扉が付くことは御正殿の完成を意味する。
奉幣 ※ 10月3日 6日 遷御翌日、天皇陛下から奉られる幣帛(お供え物)を奉納する。	御船代奉納式 9月17日 19日 御神体を納める御船代を新しい御正殿内に奉納する儀式。
大御饌 10月3日 6日 遷御翌日の早朝、新殿で初めて大御神に大御饌を奉る儀式。	洗清 9月24日 26日 御正殿の竣功にあたり、正殿をはじめとする諸殿舎の殿内外を洗い清める。
遷御 ※ 10月2日 5日 大御神が新しい御正殿へお遷りになる。遷宮の中核となる神事で、夜に行われる。	心御柱奉建 9月25日 27日 御正殿の床下中央に心御柱を建てる祭儀。深夜に行われる秘儀で見ることができない。
御飾 10月2日 5日 遷御当日、調進された御装束で御正殿を裝飾し、遷御の準備をする。	杵築祭 ※ 9月28日 29日 御正殿の完成を祝い、古歌を歌いながら、御柱の根本を白杖で撞き固める。
川原大祓 10月1日 4日 遷御前日、祭主以下すべての奉仕員、御装束神宝などを川原祓所で祓い清める。	後鎮祭 ※ 10月1日 4日 造営工事が終了したことを喜び、平安を祈る。御正殿の床下に天平釜と呼ばれる土器を安置する。
御装束神宝読合 10月1日 4日 式年遷宮に合わせて新調した金銅飾金物と御装束神宝の目録を読み合わせる儀式。	御装束神宝読合 10月1日 4日 式年遷宮に合わせて新調した金銅飾金物と御装束神宝の目録を読み合わせる儀式。

今後の予定

○新穀感謝祭

我が国の御親神、心のふるさとと仰ぐ「お伊勢様」。その限りない御神恩に感謝の真心を捧げ、「瑞穂の国」と称えられた我が国柄への思いを新たにす新穀感謝祭を左記の日程により開催いたします。



本年も多くの皆様のご参列を得て、奉賛の喜びを共に致したく存じます。

記

一、日時

令和六年十一月十二日・

十三日（一泊二日）

一、神宮では御垣内にて特別参拝、参拝記念が撤下されます。

二、宿泊ホテル、行程、参加費は支部によって異なります、支部役員・神社宮司にお尋ね下さい。



○神殿新嘗祭

初穂を供え、今年一年の収穫の感謝と喜びを神々に奉告する「新嘗祭」恒例による神事を左記により斎行致します。

記

日時

令和六年十一月七日（木）

午後一時三十分

場所 山梨県神社庁神殿

○神社庁神殿祈年祭並びに教化講演会のお知らせ

神社庁神殿祈年祭並びに教化講演会を左記の日程で斎行いたします。

記

一、日時

令和七年二月六日

（木曜・先負）

一、日程

神殿祈年祭

午後一時三〇分

教化講演会

午後三時

一、講師

神棚の里

公式神棚アドバイザー

齊藤 蘭 先生

一、講演内容

「家庭祭祀について」

一、場所

山梨県神社庁 神殿



神棚差し上げます

山梨県神社庁

TEL 〇五五―二八八―〇〇三三



神社庁
ホームページ